

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 9 年 8 月調査結果 - -

(平成 1 9 年 8 月 3 1 日)

調査期間：平成 1 9 年 8 月 2 0 日 ~ 2 4 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合などにヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 6 卸売業 2 3 5
小売業 7 3 6 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況 (D I 値を集計)
および、業界として当面する問題など

D I 値について

D I 値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

業況DIは3カ月ぶりに改善するも、仕入単価DIは6カ月連続で悪化

8月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（32.8）よりマイナス幅が0.8ポイント縮小して32.0となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別の業況DIは、建設、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、猛暑の好影響などによる売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、業況低迷、官民工事の減少、仕入コストの上昇による採算悪化、猛暑の悪影響などによる売上減少を訴える声も聞かれる。

【建設業】からは、「受注は順調に確保している」（電気工事）との声がある一方、「公共工事の減少、受注競争の激化、採算の悪化が続き、会社の存続が危ぶまれる」（一般工事）、「住宅着工件数が減少しており、業況は低迷している」（管工事）、「公共工事、民間工事ともに減少しており、業況が悪化している」（建築工事）との声も寄せられている。

【製造業】からは、「業況は総じて順調に推移している。安定操業が続いており、フル稼働の状態」（一般産業用機械製造）との声がある一方、「業界全体で仕事が減っている」（建具製造）、「受注先からのコストダウン要請と原材料価格の上昇により、収益が圧迫され、厳しい状態が続いている」（自動車・付属品製造）との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「猛暑の影響により季節商品の売上が伸びている。先行きにも期待が持てる」（食料・飲料卸売）との声がある一方、「原油価格の高騰により仕入コストおよび燃料コストが上昇し、収益が悪化した」（衣服・日用品卸売）、「荷動きが悪い」（農畜産水産物卸売）との声も寄せられている。

【小売業】からは、「景気回復感がある」（商店街）との声がある一方、「明るい兆しがまったくない」（商店街）、「消費者の購買意欲の減退が懸念される」（百貨店）、「猛暑の影響が、来店客数が減少し、全般的に苦戦している。秋物商品の動きに期待したい」（百貨店）、「売上は伸びたものの、決して景気が良くなったとは感じない」（百貨店）との声も寄せられている。

【サービス業】からは、「売上は堅調である」（ソフトウェア）との声がある一方、「売上は例年と比べて悪化している。業況もあまり良くない」（酒場・ビアホール）、「売上は横ばいだが、仕入価格の上昇により採算が悪化している」（食堂・レストラン）、「業界では未だに不況感を持っており、ますます危機感を強めている」（旅館）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が3.1ポイント縮小して25.1となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、卸売で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

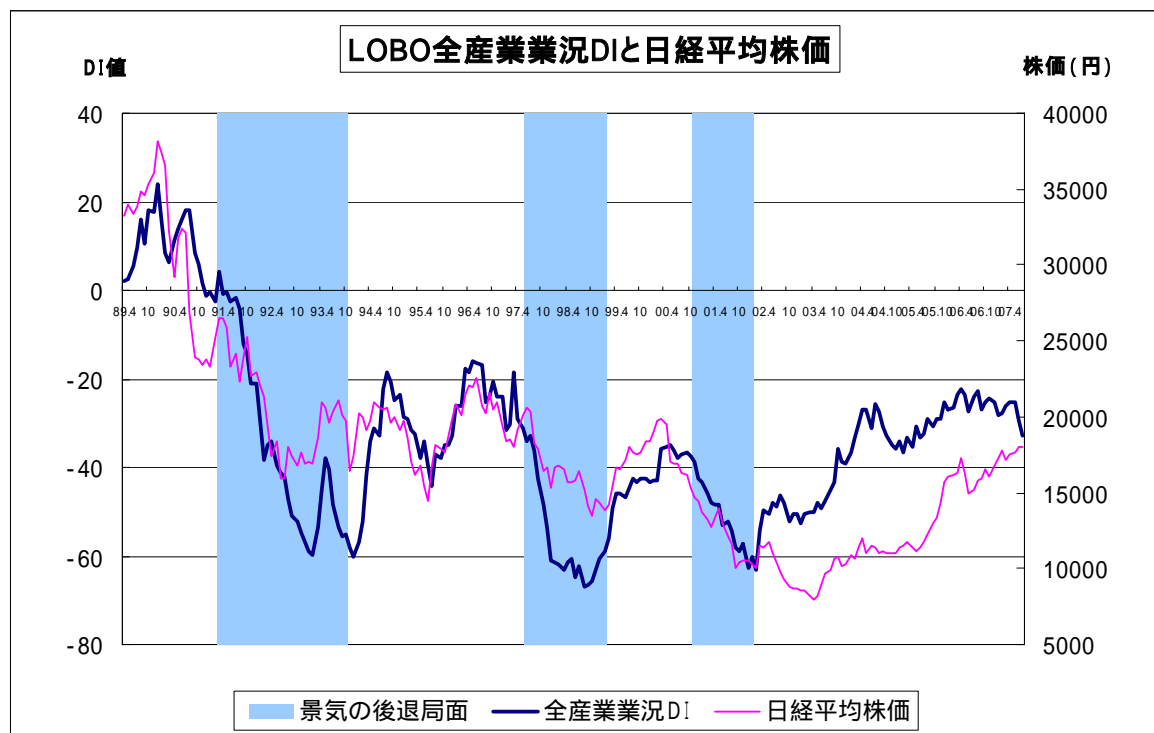
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.9ポイント縮小して30.3となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は卸売、小売で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が2.3ポイント弱まって19.5となり、3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値の悪化超感は卸売で強まったものの、他の4業種で弱まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が0.6ポイント強まって33.0となり、6カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の上昇超感は一貫して建設、製造で弱まったものの、他の3業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、過剰超感が1.0ポイント弱まって1.3となり、4カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、DI値は建設、製造で過剰超感が強まったものの、製造で不足超感に転じ、小売、サービスで不足超感が強まった。

向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月ベース)が27.4と、昨年同時期の先行き見通し(21.2)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

8月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 32.8 ）よりマイナス幅が0.8ポイント縮小して 32.0となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

産業別の業況D Iは、建設、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月（9月～11月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 27.4と、昨年同時期の先行き見通し（ 21.2 ）に比べて悪化している。

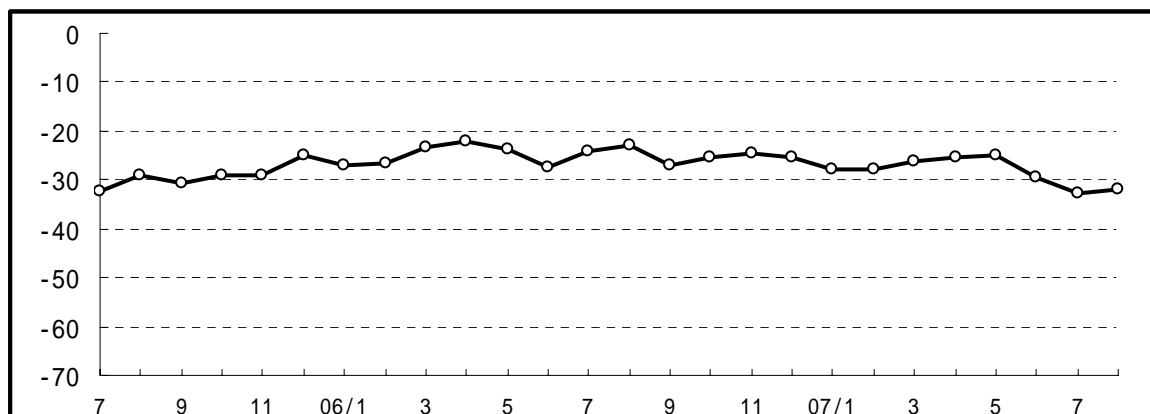
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	19年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	26.0	25.3	25.1	29.5	32.8	32.0	27.4 (21.2)
建設	42.8	36.8	40.9	46.0	43.5	44.3	44.3 (34.6)
製造	14.5	20.6	21.3	23.4	26.3	23.5	22.8 (12.0)
卸売	37.7	38.2	27.8	39.4	42.6	48.4	24.4 (23.3)
小売	25.4	19.8	22.3	26.5	31.4	31.1	25.7 (18.7)
サービス	23.7	23.9	20.9	24.5	30.8	27.9	24.7 (24.6)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
（ ）内は昨年8月の先行き見通しD I < 以下同じ >

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が3.1ポイント縮小して25.1となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、卸売で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

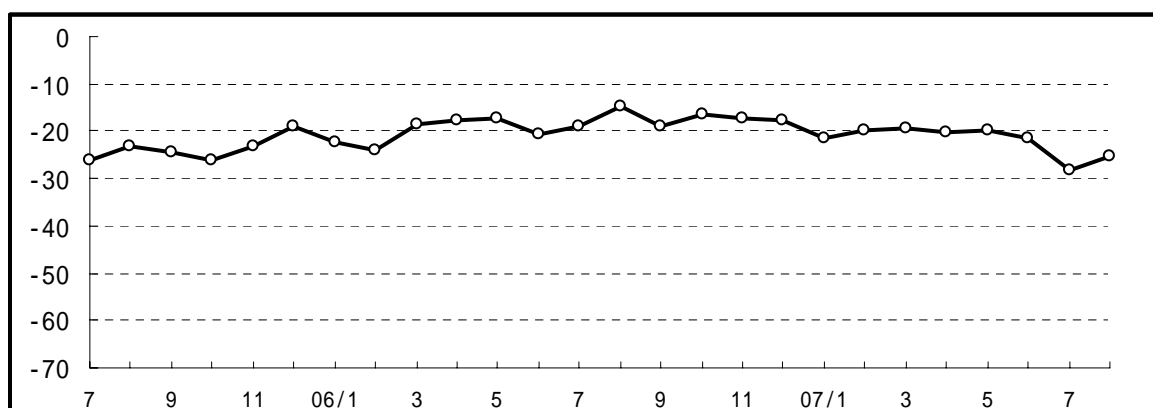
向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が20.8と、昨年同時期の先行き見通し(13.6)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	19年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	19.5	20.3	19.9	21.4	28.2	25.1	20.8 (13.6)
建設	35.8	34.8	37.8	37.9	34.3	37.9	35.8 (26.2)
製造	6.5	9.3	9.1	10.7	20.1	12.1	16.8 (3.9)
卸売	34.4	36.3	22.8	30.6	35.2	43.2	18.7 (16.7)
小売	19.7	18.5	20.0	19.7	31.2	27.7	20.2 (12.3)
サービス	16.8	18.1	18.4	20.3	26.5	20.6	17.1 (16.2)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.9ポイント縮小して30.3となり、3カ月ぶりに縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は卸売、小売で拡大したものの、他の3業種で縮小した。

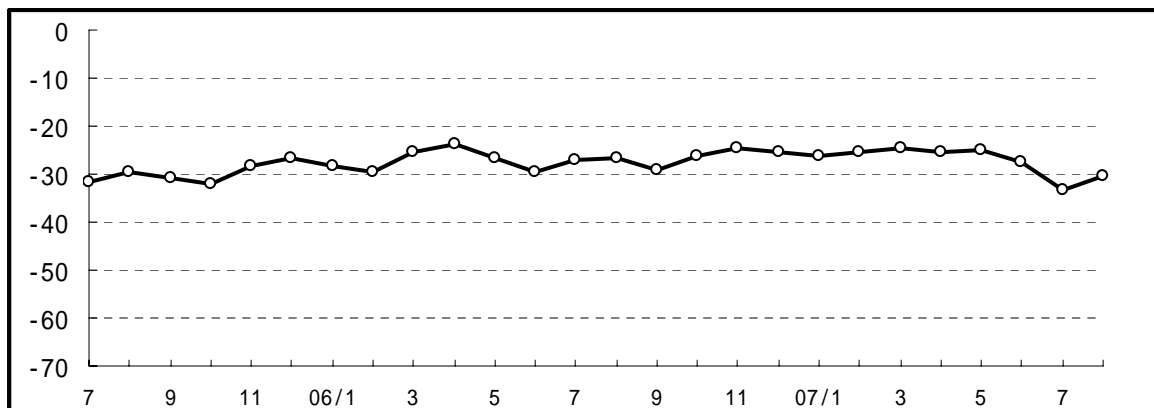
向こう3カ月(9月～11月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が26.6と、昨年同時期の先行き見通し(22.0)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の4業種で拡大している。

採算D I (前年同月比) の推移

	19年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	24.7	25.6	25.2	27.5	33.2	30.3	26.6 (22.0)
建設	39.9	41.2	45.2	44.3	45.7	40.2	42.5 (34.4)
製造	20.9	24.1	24.9	28.6	34.1	28.5	24.4 (20.2)
卸売	34.4	32.5	24.1	26.3	33.3	39.1	23.1 (14.8)
小売	17.5	19.6	17.8	20.9	27.1	27.3	24.0 (14.5)
サービス	24.2	21.2	22.0	23.7	31.3	25.8	23.2 (28.0)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	19年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	20.1	18.3	18.2	19.8	21.8	19.5	20.1 (17.1)
建設	36.8	27.5	33.6	34.3	35.5	34.6	37.0 (28.5)
製造	12.5	13.2	14.9	16.8	21.3	16.0	16.8 (14.2)
卸売	18.6	20.4	10.1	18.6	19.7	22.3	14.7 (9.0)
小売	17.6	16.0	15.7	16.8	18.1	18.0	18.4 (15.0)
サービス	20.8	19.4	16.8	16.1	17.1	12.6	16.6 (18.3)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が3カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、卸売で悪化超感が強まる一方、他の4業種で弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、サービスで悪化超感が弱まる一方、他の4業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	19年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全産業	23.2	25.6	28.4	30.1	32.4	33.0	29.2 (27.5)
建設	35.8	39.9	40.7	41.5	43.3	43.1	37.8 (36.5)
製造	41.7	41.5	49.4	47.3	51.2	50.0	40.9 (38.0)
卸売	25.8	27.6	19.1	26.3	27.8	31.6	25.6 (32.5)
小売	10.1	9.4	14.5	15.5	17.6	18.1	20.0 (16.4)
サービス	11.5	18.0	19.3	23.5	25.1	26.4	23.4 (21.9)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が6カ月連続で強まった。産業別にみると、建設、製造で上昇超感が弱まる一方、他の3業種で強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、卸売で上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	19年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9～11月
全産業	0.5	0.6	0.2	0.2	2.3	1.3	3.7 (2.5)
建設	16.1	14.1	17.0	17.9	16.6	16.7	18.5 (14.4)
製造	1.8	0.2	1.4	2.0	1.7	0.5	3.7 (2.7)
卸売	5.3	3.8	1.2	3.1	4.3	7.7	13.2 (9.9)
小売	8.5	10.1	6.4	6.0	3.0	4.2	4.7 (4.1)
サービス	1.8	1.4	3.4	2.7	0.5	2.9	0.3 (0.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が4カ月ぶりに弱まった。産業別にみると、建設、卸売で過剰超感が強まる一方、製造で不足超感に転じ、小売、サービスで不足超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、小売で不足超感が強まる一方、サービスで不足超感が弱まり、建設、製造、卸売で過剰超感が強まる見通し。

【平成19年8月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「公共工事の発注件数が少ない。また、民間工事の動きも鈍くなっている。売上、収益とも改善せず、業況に明るさは見られない」(米子・一般工事)「荷動きは相変わらず悪く、資金繰りが厳しい状況が続いている。秋の需要を期待しているが、先行きは不透明である」(水俣・製材木製品製造)「相変わらず厳しい状況が続いている。催事を行っても売上につながらない」(米沢・織物製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「来店客数が減少した」(土別・各種商品卸売)「来街者が減少し、厳しい状況が続いている。先行きはまったく見えない」(八女・商店街)「景気回復感はない」(岩国・理容)といったコメントも寄せられている。

仕入コスト上昇

また、各業種から、依然として原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「売上は前年並みだが、原油価格の高騰により仕入単価やガソリン価格が上昇し、業況は厳しい」(因島・一般工事)「原油や鋼材の価格が上昇し、仕入コストが増加している。採算面で厳しい状況が続いている」(赤穂・金属加工機械製造)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「原材料価格が高騰しているため、メーカーからの値上げ要請が続いている。しかし、販売価格への転嫁が困難なため、収益が悪化している」(瀬戸・家具・建具等卸売)「油製品や小麦粉の仕入単価が上昇し、採算が悪化している」(銚子・その他の小売)「軽油価格の高騰により収益が圧迫されている。運賃への転嫁が困難なため、業況は厳しい」(富士・運送)といったコメントも寄せられている。

猛暑の影響

猛暑の好影響を挙げる声が聞かれる一方、猛暑の悪影響を訴える声も寄せられている。小売、サービスからは、「猛暑の影響で、水着、浴衣など夏物商品が好調」(千葉・百貨店)「猛暑の影響で飲料水の輸送が増加した」(石岡・その他サービス)「猛暑続きでビアガーデンが好調」(京都・旅館)との声が寄せられている。他方、「日中の気温が高すぎて、商店街の人通りが一層少なくなっている。暑すぎて購買意欲が減退しているようだ」(館山・商店街)「猛暑の影響か、商店街を訪れる人の数が少なく、夏物衣料品の動きが低調である」(豊橋・商店街)「連日の暑さで客足が遠のいた」(伊万里・商店街)「夏物商品の処分期を終え、秋物商品の展開時期を迎えたが、連日の猛暑により売上が低迷している」(宇都宮・百貨店)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
19年	6月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	金利負担の増加
	7月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	天災・天候不順による影響
	8月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	猛暑の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「公共工事、民間工事ともに減少し、依然として厳しい状況が続いている」(一般工事)「民間工事が減少している。受注額も低く、大変厳しい状況である。景気の回復は感じられない」(管工事)「住宅産業は依然として厳しい状況にある」(建築工事)「猛暑により、エアコンの新設・補修等、細かい仕事は増加しているものの、先行きは不透明である」(電気工事)「公共工事が減少している。県の入札制度が7月から改正されたが、中小規模事業場では対応が遅れている」(土木工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況・採算D Iは6カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「需要が低下傾向にある。先行きに期待が持てない」(パン・菓子製造)「業況は悪くないが、原材料価格の上昇が収益に影を落とし始めている」(ブリキ缶等製造)「企業間格差を感じる」(一般産業用機械製造)「海外からの低価格品の流入、住環境やライフスタイルの変化、消費者ニーズの多様化、環境規制への対応など、業界を取り巻く環境は依然として厳しい」(家具製造)「燃料費の高騰や不安定な株価の影響により先行き見通しは暗い。団塊世代の本格的な退職を迎え、若手の育成が急がれる」(金属加工機械製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上・採算D Iのいずれも3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「業況は低迷している。収益も見込めず、企業体力を消耗している。現状の打開策が見つからない」(家具・建具等卸売)「和装に関しては、依然として出口が見えない状況が続いている。また、婦人服、寝装具も苦戦している」(衣服・日用品卸売)「依然として景気の回復は感じられない。売上は良くて前年並みである。石油製品をはじめとする各種原材料価格の上昇により仕入コストが増加する一方、販売価格への転嫁が進まず、採算が悪化している」(各種商品卸売)「お盆以降、来店客数が少ない」(各種商品卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは4カ月ぶり、売上D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小、採算D Iは3カ月連続で拡大した。「来店客数が減少傾向にある。商店街のイベントは盛況だが、売上に結びつかない」(その他の小売)「売上が継続的に減少している。特に食料品の不振が続いている」(商店街)「観光客を含む来街者が増加し、売上、採算は改善したものの、仕入単価が上昇しているため景況感あまりない。先行きもまったく読めない」(商店街)「主力の夏物衣料品の動きが鈍い」(商店街)「全般的に消費者の購買意欲が冷え込んでいる」(百貨店)「儲かっている店とそうでない店の格差を感じる。猛暑の影響か、来店客数が減少し、売上が伸びない」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは3カ月ぶり、売上D Iは5カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「消費が低迷している」(スポーツ施設)「軽油価格が値上がり傾向にあり、採算が悪化している」(その他サービス)「売上は伸びているものの、石油価格の上昇により収益が悪化している」(公衆浴場)「原材料価格の上昇分を価格に転嫁することができず、収益が悪化している」(洗濯)「売上が減少している。今後、廃業する店が増加すると思う」(その他の一般飲食店)「需要の低下により、業況が悪化している」(その他の事業サービス)「個人消費の低迷が問題である」(旅館)「集客のための努力をしているが、効果は薄い。観光客が来ても売上に直結しない」(旅館)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、東海、近畿、中国、四国でマイナス幅が拡大したものの、他の4ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

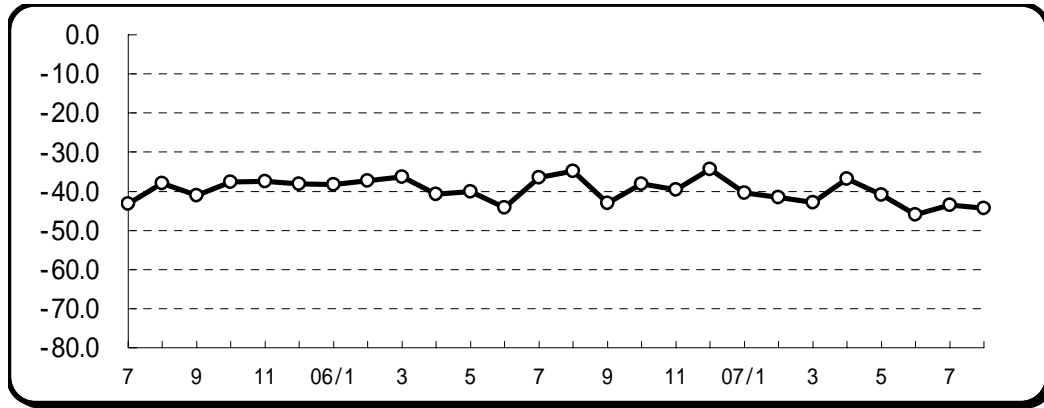
ブロック別の向こう3カ月(9月~11月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北海道、近畿で改善しているものの、他の7ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

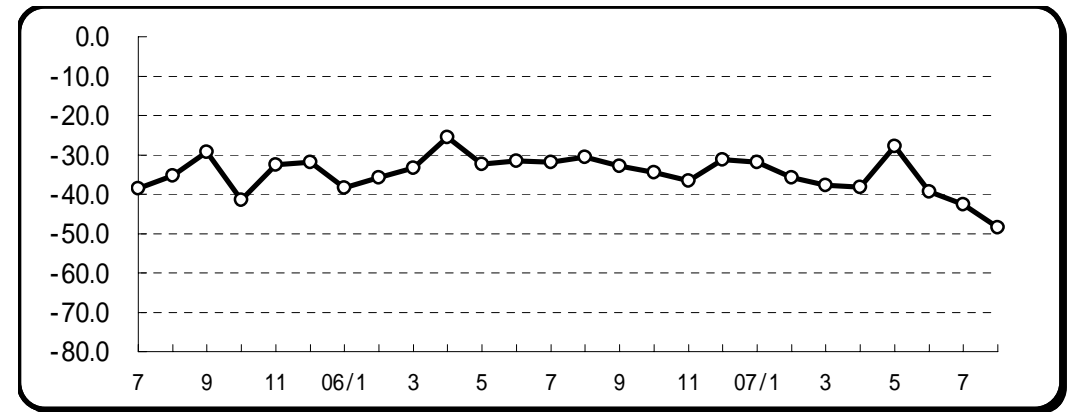
	19年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 9~11月
全 国	26.0	25.3	25.1	29.5	32.8	32.0	27.4 (21.2)
北 海 道	41.0	27.4	33.1	33.3	36.4	37.1	32.4 (33.1)
東 北	29.2	27.0	28.3	32.1	36.6	31.7	32.4 (28.2)
北陸信越	23.7	27.0	27.0	33.9	39.2	30.3	24.7 (15.4)
関 東	22.2	20.2	18.5	24.1	29.3	27.8	25.2 (14.8)
東 海	17.8	23.5	28.5	24.4	28.6	30.2	24.7 (16.4)
近 畿	25.4	24.2	25.1	26.9	31.1	31.4	25.7 (26.9)
中 国	28.8	37.2	30.3	35.7	36.6	39.8	34.9 (28.1)
四 国	34.0	32.3	29.9	41.5	33.9	43.1	28.5 (25.9)
九 州	24.8	22.2	21.3	28.0	32.0	29.5	27.1 (15.8)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

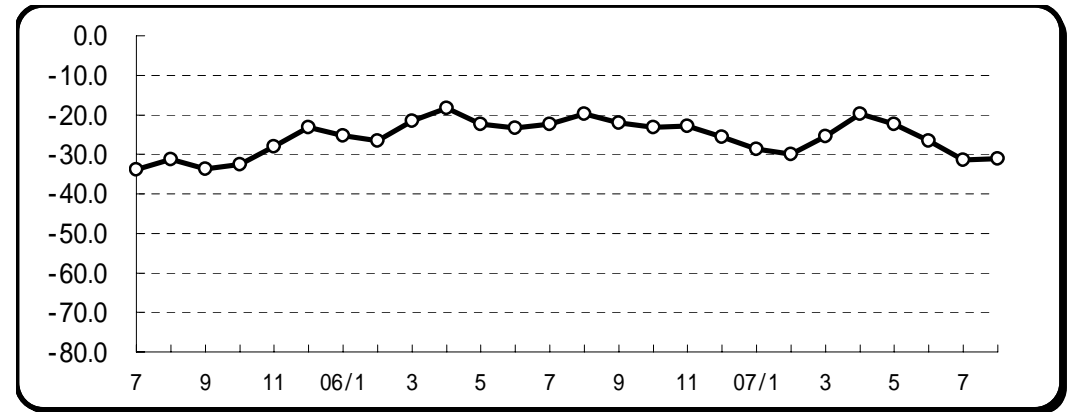
建設業



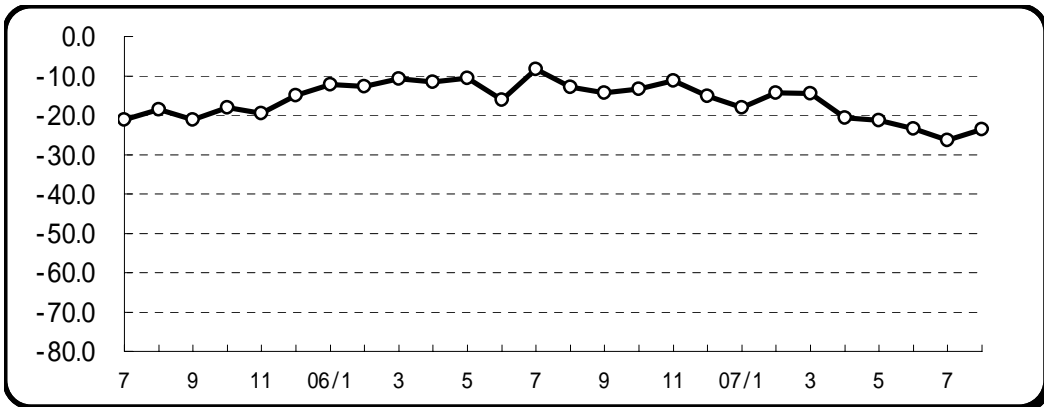
卸売業



小売業



製造業



サービス業

